

第3期多摩区区民会議 第1回企画部会

日 時:平成 22 年 11 月 1 日(月)18 時～20 時

場 所:多摩区役所11階1102会議室

出席者:(委員)池野廣委員、石橋吉章委員、稲田光世委員、戸高仁子委員、初田温子委員、原田弘委員、
吉田輝久委員

(区役所)三橋副区長、企画課:企画課大坪課長、芦舘課長補佐、新妻職員

(コンサルタント)中島

(傍聴者)0名

■議事

1. 開会

2. 議事

(1)区民会議(全体会議)の次第について

(2)区民会議ニュースについて

(3)中間報告書について

3. その他・事務連絡

・次回日程と今後のスケジュールについて

4. 閉会

■確認事項

- ・全体会議で「多摩区の地域資源を生かしたまちづくりを考えよう」の参加を募る。
- ・所属部会の変更については、委員長が全体会議で承認する。ただし、全体会議までの期間は、傍聴として出席し、発言は認めるが採決の権利はないものとする。これについては、全体会議で諮る。
- ・部会の審議状況の資料について、できる範囲で事前配布する。また、部会の摘録も全体会議の前に可能な範囲で送付する。
- ・区民会議ニュース作成については、編集委員は特に設けない。企画部会でニュースの検討は行う。
- ・3月までにしっかりとした中間報告書を出すことは難しい。このため、中間報告書は、ニュースと兼ねる。ニュースを少し内容を充実したものとする。これも全体会議で諮る。

1. 開会

(事務局)

当会議は、公開原則が適用されているので、傍聴について認めているので、ご了解願いたい。本日の記録、議事録については、市民の方に公開をしているので、録音、写真撮影を行うのでご了解願いたい。

議事進行は、企画部会長については区民会議委員長が兼ねるので、池野委員にお願いしたい。また、会議終了後に委員長、副委員長とは、全体会議の議事の進め方、各部会長については、審議状況の報告の方法について打ち合わせさせていただきたいと考えている。

2. 議事

(1) 区民会議(全体会議)の次第について

(事務局)

地域振興課からお知らせがあるが、説明させていただいてよろしいか。

配布されている「多摩区の地域資源を生かしたまちづくりを考えよう」を見ていただきたい。(以下、資料説明)

11月8日に全体会議があるということなので、そのときにお知らせと募集してもよろしいか。

⇒全員了承。

(池野委員)

それでは本題の全体会議の進め方の説明していただきたい。

(事務局)

資料をみていただきたい。こちらは事務局案なので、進め方を検討していただきたい。(区民会議の進め方(案)説明)

(池野委員長)

それでは順番に検討していきたい。藤子・F・不二雄ミュージアムの報告をなぜするのかを書いていただきたい。第2期で取り組んだ結果をとということを明記してほしい。

(石橋委員)

もう修正はできないのか。

(事務局)

アクセス道路整備のための予算がついているし、すでに工事も始まっている。今回は、どれだけ第2期区民会議の提案が取り上げられたかということの説明である。

(池野委員長)

次に部会と部会委員の決定についてだが、委員長が区民会議に諮って決定するとあるが、そのとおりにするのか。

(石橋委員)

この問題は、環境・観光部会への途中参加について、最初は部会で決定できるものだと思っていたが、要綱をよく読んでみると、全体会議に諮らないとできないとなっている。今後にもかかわってくるが、区民会議の委員で、その部会委員ではないが参加したいというときに、どのような手続きが必要か検討する必要がある。また、部会に入りたいと

いう希望があったときに、全体会議で承認しないと入れないのか。全体会議は、年に3回しか開催されないし、専門部会はその間に進むのでどうすれば良いか検討する必要がある。部会委員になるのか、傍聴になるのか。

(戸高委員)

私は、部会長をやっているが、同じようにどこで決めるのか疑問を感じていた。このようなことは全体で共有する必要があると思う。このため、議論する必要があると思う。

(石橋委員)

賛否をとるケースはないと思うが、部会委員追加については、次の全体会議までに待つか、もっとスムーズに行うためには、全員をそれぞれの部会委員とする方法もある。今の要綱では、傍聴とし部会長が指名したときのみ発言が許され、決議するときはその人たちを除くやり方だが、要綱を変えるとなると大変である。このため運用で行うことが考えられる。

(池野委員長)

部会に入った委員が変わるということは当初ないように考えていたが、任期が2年間もあるので取り上げる課題によっては、その可能性も考えられる。このため、発言は認める。採決には入れないということでしょうか。

⇒所属部会の変更については、委員長が全体会議で承認する。ただし、全体会議までの期間は、傍聴として出席し、発言は認めるが採決の権利はないものとする。これについては、全体会議で諮ることが確認された。

(池野委員)

各部会の報告と意見交換についてだが、これは報告と意見交換を含めて20分か。

(事務局)

そうである。

(石橋委員)

20分では意見交換にならないのではないかと。ミュージアムの説明は、15分もある。これについては、時間を取られないように工夫しなくてはならない。

部会での意見交換で時間をとる必要があるのではないかと。

(池野委員長)

区民会議の中心は全体会議だと思う。このため、形式的に部会から報告をもらい承認するのはどうかと思う。部会の報告について、しっかり意見交換したい。

あと、部会の摘録は、部会委員だけしか配っていないのか。

(事務局)

確認のために摘録案を部会委員に配っている。正式なものは、ホームページにアップしている。配った方がよろしいか。

(池野委員長)

区民会議委員は、部会で検討する内容について情報のレベルを同じにしておくべきだと思う。

あと全体会議の資料は、事前に配布しておくべき。全体会議当日に最初から説明していると理解されるまでに時間がかかってしまう。

(戸高委員)

事前に資料を読んでいただいたうえで、部会長が要点を説明した方が良いと思う。

(原田委員)

事前に何を説明するかわかっていての方が良い。

(吉田委員)

3部会の報告内容を事前に全部読んだ方が良い。

(池野委員長)

部会の検討内容が他の部会と重なることが考えられる。このため、調整も必要になる。全体会議でそういうことができれば良いと思う。

(稲田委員)

資料を読み込むのも時間がかかるので、事前に資料をいただいて他の部会がどのようなことをやっているか理解したうえで全体会議に出席することが望ましいと思う。

(原田委員)

摘録が作成するまでの期間はどのくらいか。

(事務局)

コンサルタントが案を作成するのに2週間、それを事務局でチェックするのに1週間、さらに部会委員がチェックするのに1週間程度かかる。

(石橋委員)

全体会議の前に配布するのは、部会の報告内容だけで良いと思う。他の資料は必要ない。部会の報告も当日にだして、部会長が進捗状況を報告するだけでは、全体会議を開催する必要はないと思う。そうすると検討はすべて部会に任せるべきである。

たまに、部会で了承したのに、全体会議で異を唱えることがある。こういうのは調整しないといけないが。

(初田委員)

今回は1週間前なのでできるところまでで良いと思うが。

(吉田委員)

部会の摘録を毎回配布することは大変だと思う。

(池野委員長)

事務局の仕事を増やしたいわけではないので、できる範囲で事前送付してほしい。

また、部会での議論については、部会の事情でスピードがまちまちだと思う。それはみんなで認めてほしい。このため、摘録も可能な範囲で送付してほしい。やってみて大変だったらまた相談してほしい。また、ミュージアムの説明は簡潔にやってもらえるように依頼してほしい。

⇒部会の審議状況の資料について、できる範囲で事前配布する。また、部会の摘録も全体会議の前に可能な範囲で送付する。

(2) 区民会議ニュースについて

(池野委員長)

続いて区民会議ニュースの説明をお願いしたい。

(事務局)

多摩区区民会議ニュースということで区民会議の周知を目的とした発行物である。昨年度までは、編集委員会を設置して発行した。本日は今期編集体制をどうするか、および第1号の内容はこれでよいか検討してほしい。(資料6を説明)

(池野委員長)

みなさん、今期編集体制をどうするか、および第1号の内容はいかがか。ちなみに発行部数はいくらか。

(事務局)

区内の町内会回覧にのせるため、6800部となっている。

(初田委員)

私が前期は編集員であったが、事務局がたたき台をつくり、編集委員会で意見を述べた。編集後記は編集員で作成した。

(石橋委員)

もとは事務局が作成するので、編集委員会は特に設けず、企画部会で確認するので良いのではないかと。我々が記事を集めてつくるとなると負担が大きい。

(池野委員長)

編集委員会を特に設けず企画部会で検討することでいかがか。

(初田委員)

紙面割などどうするか。委員で検討した方が良いのではないかと。

(石橋委員)

内容についてだが、自転車の交通安全について、賠償請求されるからルールを守りなさいという記事がある。賠償請求されるからルールを守りなさいという世の中をつくったらおかしいことになると思う。どうか。

(事務局)

交通安全部会のときにいろいろ意見が出されたが、大人になってもいろいろルールを守れないという意見が出された。そのようなことで、このような記事になった。

(石橋委員)

ルールを守らせる術であるかもしれないが、ルールを守るためにはどうすれば良いかということを徹底的に検討しないと意味がないのではないかと。そうでないと罰則がなければルールを守らないでも良いという世の中になってしまう。

(吉田委員)

自転車でもなんでもなかなかルールを理解していないということをアピールしたかった。

(池野委員長)

表現を少し変えた方が良くと思う。

(石橋委員)

直せないならこれで良いが、ルールを守ってもらうためには、まずは子どもから伝えないと効果が出ない。ゴミ分別も同じで、子どもが学んでくると親が気づいて大人も分別をするようになる。やはり焦点は子どもではないか。

(吉田委員)

子どもは学校で自転車教室は十分に行っている。大人にはなかなか伝わらない。

(石橋委員)

多摩区地域教育会議でアンケートをやったが、自転車のルールをどこでやったかという問いに対して、子どもたちのほとんどが交通安全教室であった。親から教わったなんてなかった。そのデータを部会に提供しても良い。最初に地域教育会議で取り上げた理由は、大人が対象であった。しかし、大人に伝えるのは難しい。このため、子どもから伝えることになった。子どものころからどうなっているかということで取り組むことになった。そうすると子どもから大人に波及すると思う。

(事務局)

たとえば、子どもと大人が歩道を自転車で並走しているところを見かける。こういうのは大人に伝えないとならないという意見が出されていた。

(吉田委員)

先日、新聞でエコロジーということから自転車の利用が進められているが、そのような時代の中どうするかという意見が出された。

(原田委員)

前回の部会では、これで良いと思ったが、少し見直すことも必要である。

(事務局)

交通安全部会の部分については、少し修正する。その他については時間の関係上、個別にお願いしたい。

入稿のスケジュールがあるので、10日までにご意見をいただきたい。

(池野委員)

編集委員はどうするか。本日に決めるか、2号をつくる時に決めるか。

(事務局)

2号を発行するのは、また次回の区民会議全体会議開催前ぎりぎりに企画部会を開催することになると思う。次回の企画部会で決めるのでは遅い。

基本的な作業は、事務局で行うが、事前にレイアウトや方向性を相談させてもらうか、作ったものをお出しするかの違いである。

⇒編集委員は特に設けない。企画部会でニュースの検討を行う。

(3) 中間報告書について

(池野委員長)

次に、中間報告の時期と方向性についてだが、時期は区民会議で決めてよいのか。レイアウトもその他も。

(事務局)

コンサルタントへの委託の関係上、3月に1度中間報告を作成してもらえると助かる。前期では、フォーラムの前までに中間報告をだし、フォーラムを経て最終報告書を作成した。

また、形式は、報告書の形もあるし、冊子のような形もある。

(石橋委員)

フォーラムは、来年の11月と考えると、3月ではまとめきれないと思う。フォーラムのやり方はいろいろあって、検討した内容を報告するのと構築する前に意見をもらうというやり方がある。事務局案のスケジュールだと、この時期に構築するための意見をもらうとまとめるのが大変になる。

(事務局)

前期のフォーラムの趣旨は、区民会議提言の素案をもとに区民(参加者)と意見交換するというものであった。

(石橋委員)

中間報告をやめるというのはいけるか。

(事務局)

3月に区民会議ニュースを出すので、それを報告と兼ねるといことはあり得る。

(石橋委員)

川崎市では、市民参加がなされていないという課題があって、それは情報が行き届いていないからである。このため、いろいろなところで同じような課題を検討している。このため、フォーラムや中間とりまとめの工夫をしないといけないと思う。

来年11月のフォーラムはしっかりやるべきである。たとえばミニフォーラムなどほどんどやって、みなさんの検討に肉付けはしていった方がよい。

まちづくり協議会が行った料理教室があったが、タウンニュースにのって視察したいという申し入れがあった。行政職員の視察研修らしい。そのようにタウンニュースにちょっと出てきただけで、視察研修の申し入れがある時代である。また、コミュニティ部会の施設だって、まちづくり協議会の調べている資料をもらえば終わりである。こんなばらばらのことをやっていたら無駄が多い。

フォーラムも考えて開催しないといけない。最終案についてパブリックコメントをもらうためでも良いが、それならそういう位置づけでやるべきである。

(池野委員長)

3月の中間報告書は、ニュースで兼ねることだろうか。

(吉田委員)

ニュースを少し厚いものにするという対応か。

(池野委員)

そのとおりである。

(初田委員)

3月までにしっかりした中間報告を出すことは難しいと思う。ニュースと兼ねてもう少し内容を充実させたものとするのが良いと思う。

(戸高委員)

市民のみなさんから理解されるものを作成するべきである。

(稲田委員)

みなさんと同じである。

⇒3月までにしっかりとした中間報告書を出すことは難しい。このため、中間報告書は、ニュースと兼ねる。
ニュースを少し内容を充実したものとする。

3. その他・事務連絡

(池野委員長)

今後のスケジュールは。

(事務局)

次回の部会と全体会議スケジュールは、事務局から連絡して調整させていただく。

(池野委員長)

何か委員のみなさんから他にあるか。

(石橋委員)

第4期区民会議に向けて、課題の出し方をもっと考えた方が良いと思う。部会ありきで検討するのではなく、多摩区でどんな課題があるか把握して検討すべき。第3期実行計画素案をみて、多摩区の課題とある。これを区民の視点で議論できる会でなければ、この会は同好会みたいなものになってしまう。要綱にも分析して検討するというふうになっている。私は提言と予算要望は紙一重である。提言が最終的には要望になってしまってもそれは良いと思う。

(池野委員長)

それに向けても3期の中で考えていきたい。本日はこれで終了とする。

以上